

心豊かな地域づくりをめざして 知りあって 触れあって 学びあおう

公民館委員総会



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,821人
男子 3,350人
女子 3,471人
世帯数 2,052戸
(10年5月末現在)

五月八日、公民館委員総会が開催された。今年度の基本方針、活動方針、事業計画、予算が決定され今年度がスタートした。会議に先立ち長年公民館活動にたずさわった方々の表彰が行われた。

公民館長

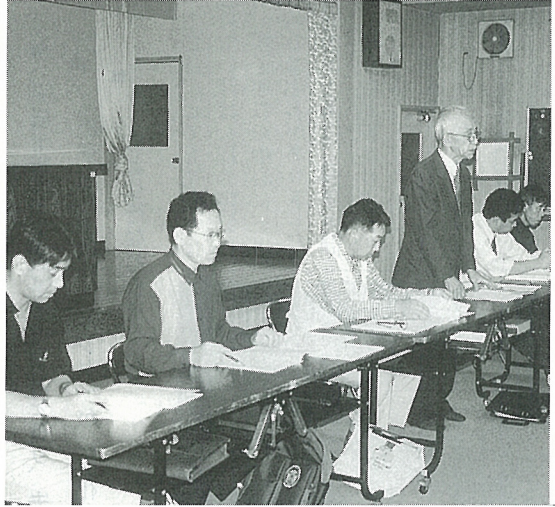
木下 陸奥

竜丘の公民館が発足したのが昭和二十三年の三月であります。その時は、青年会の主催で、旧電気組合事務所を村が買収し、そこが公民館事務所兼竜丘図書館として村の社会教育活動の拠点でありました。

爾来、五十年の歳月を重ね、時々の地域の要望を取り入れ積極的な事業がなされ、他の地域と異なる特色ある公民館活動が活発に行われてきています。

今年度は、歴史ある五十年の節目として特色ある事業・活動を地域の方々の理解と協力をいただいて、公民館委員が総力を上げて取り組まします。

従来より「体育・文化・広報・民俗資料等の委員会活動を



新年度の抱負を語る館長と委員長

『参画と体験、そしてきっかけへの働きかけ』を活動方針として計画しました。事業は前年度とほぼ同じですが、今年度は市民大学講

「スポーツを通じて、地域住民の親睦交流と健康の維持増進を図り、活力ある地域づくりにつなげる」との活動方針を定め、地域のお年寄りから子どもまで皆が参加できるように、幅をもたせた事業を実施します。

文化委員長

伊藤 公夫

「参画と体験、そしてきっかけへの働きかけ」を活動方針として計画しました。事業は前年度とほぼ同じですが、今年度は市民大学講

「スポーツを通じて、地域住民の親睦交流と健康の維持増進を図り、活力ある地域づくりにつなげる」との活動方針を定め、地域のお年寄りから子どもまで皆が参加できるように、幅をもたせた事業を実施します。

今年度の重点事業の一つでもある親子の広場、親子ふれあいハイキング、親子スキーツアーなどを通じて、自然とのふれあい、大運動会等のスポーツを通じての人とのふれあいを大事にします。誰でも気軽に参加し、住民全員の手で盛り上げていただきますよう、ご協力をお願いします。

広報委員長

代田 勇

広報委員会ではこの『館報たつおか』を今年も五回発行します。公民館の現況を地域に伝達することを主に、地域課題や、生活課題についても問題提起できるような紙面を作っていきます。

民俗資料保存委員長

山田 安美

昭和四十八年度に委員会が発足し、以来二十五周年

活動の歩みをかたちとして

大人の学校 三年間の記録集発行

竜丘公民館の「大人の学校」が発足して三年がたとうとしています。そこでその活動の歩みを会員みんなで確認するため「記録集I」が発刊されました。

内容は、毎回会員に送られている開催通知と、講座のスケジュールと記録をまとめたものと、毎回の資料が入り、それに最近始まったクラブ活動（現在六クラブ）の記録も含めて作られています。発刊に向けて運営委員を迎え、この記念すべき年に当り二十世紀最後の刊行本として「丘の語部たち」第三集を発刊することになり、二十一世紀に伝えるべき内容のある一冊の書物が出来あがることを願いつつ、委員一同一丸となって日夜頑張っております。

表彰

平成十年度の竜丘公民館社会教育功労者表彰受彰は次の皆様です。大変お世話になりました。



澤柳辨治郎さん(駄科)
竜丘公民館長
(昭和五十六年〜五十九年)
竜丘公民館運営審議会委員
(昭和六〇年〜平成九年)
通算一七年間



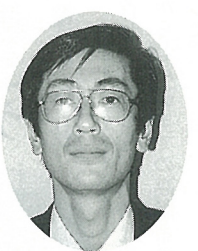
菅岡 富男さん(上川路)
文化委員
(平成六年〜九年)
通算四年間



伊藤 康弘さん
竜丘公民館主事
(平成五年〜九年)
通算五年間



中島武雄さん(桐林)
文化委員
(昭和六三年〜平成九年)
通算六年間



林 保彦さん(桐林)
広報委員
(昭和五十七年〜平成九年)
通算一六年間



池田 啓三さん(長野原)
長野原分館主事
(平成七年〜九年)
通算三年間



伊原 芳久さん(時又)
体育委員
(平成二年〜九年)
通算四年間



サッカーのワールドカップに日本チームが悲願の初出場を果たしたことで、日本中にサッカーファンが増えた。この号が発行される頃には、予選の三試合は終了しているはずだが、結果はどうあれ、世界最高の舞台で活躍する日本チームの姿は多くの感動を与えたはずである。長野オリンピックもそうだったが、スポーツの世界で日本の選手が伸び伸びと活躍する場面が増え、応援にも力が入る。景気は悪く、政情も不安定で将来にも希望が持てない暗い世相の中、せめてスポーツだけでもがんばってほしいという気持ちもある。ただ、ワールドカップといえば、各国のサポーター(応援団)が興奮のあまり乱闘になることでも有名であり、今回もやはり事件が発生している。ワールドでのスター選手の活躍が明だとすれば観客席や周辺での乱闘は暗の部分である。フィールドにはルールと審判が存在するが、観客席にはルールも審判も存在しない。そこで最も大事なものはモラルである。ルールもモラルもなければ争いしか生まれない。ふと思えば、今の日本はモラルをなくした観客席なのかもしれない。日々の生活、職場や学校、世の中全体が、危険な状態にある。このことは決して都会だけのことでない。この地域にも大量のゴミの不法投棄や放火などが起こっている。簡単にルールやモラルを取り戻す妙薬はない。ただできるだけ家庭や地域の中の人間関係を希薄にしないために、共通の話題を持ち、地域の文化を大切にいくことが必要だと思う。

あたかも時がゆっくり 流れるような田園風景のなかで —親子ふれあいハイキング—



当日は、とても初夏とは思えない汗ばむ程の陽気の中、親子連れを中心に三十余名の参加者がありました。今回のコースは、前年と同様に上川路地区を中心に、ガイドの井口正三さん(上川路)の案内により、市民農園を出発しました。

まずは塚原古墳群です。ご存じの通り竜丘地区の古墳は質、量ともに飯伊地方随一といわれています。説明を聞きながら、古代の竜丘をそれぞれが脳裏に浮かべながらの散策となりました。

古墳群を後にし、考古資料館の裏手を通り開善寺を見学したのちに、昔は伊賀良へ抜ける道として、人馬が往来した「高野道」に入りました。近年国道沿いを中心としたいわゆる都市化が進む中にもありながらも、この辺りには、心を和ませる田園風景が残っています。あたかも時がゆっくり流れるような風景の中で、あざみやホタルブクロを採取したり、昔なつかしい草笛をつくり子供たちに教えるなどまさしく「ふれあいハイキング」といった光景も見られました。



平成十年度公民館事業の口火をきり、去る五月二十三日に「親子ふれあいハイキング」が、文化、体育両委員会の計画により行なわれました。

山道を登り到着したのは、水棲生物の館、ネムの木「信夫園」です。ここはメダカ、ゲンゴロウ、ミズスマシなどの水棲生物の繁殖と共生のために、休耕田を使い自然をそのままに残した場所です。管理人である井口正三さんの説明を聞きながら園内を散策しました。子供たちは、滅多に見ることのないイモリやゲンゴロウを、恐る恐る手に取って歓声を上げていました。

夕食は、それぞれが持参したお弁当をその場で広げました。適度の運動と、おいしい空気の中であって、お弁当の味も格別だったに違いありません。また中には、食後にわらび取りに出かけた人もいて、袋一杯の成果に満足そうでした。

去る四月十一日に桐林、駄科間を流れる新川に架かる「新川さる橋」の竣工式が行われました。殿岡桐林線の改良工事の一環として平成六年から工事が進められて来てこの日を迎えました。

かつてのさる橋は丸太を渡しただけの橋で、とても車を通れるものではありませんでした。しかしこの新川さる橋の開通により、桐林住民は市街地へ出るのも便利になり、又、インターへのアクセス道路としても活用されています。

参加者の皆さんは、一日楽しい時を過ごしました。日頃は仕事に追われたり、車社会の中で忙しく動く私たちですが、ときには、家族と一緒に自然に触れあい、ゆっくりとした時間を過ごすこと、もっと言えばそのような時間をつくりだすことが大切だと感じた一日でした。

もう渡ってみましたか 新川さる橋完成

近所の方のお話では「昔は中学へ通うのにも古いさる橋を使っていたが、だんだん老朽化して来て通る人も少なくなっていた、でも『新川さる橋』が開通して大変便利になりました。」との事でした。

この頃では交通量も増え朝晩のラッシュ時には国道の渋滞を避けるこの橋を使う車も増えて来ています。これまでから伊賀良への道路が開通するとますます新川さる橋も重要視されるのではな

きな事故は発生していませんが、他の地区では今年になつて七件の死亡事故が発生し、特に五月になってからは四件も発生するなど、多発傾向にあります。交通事故は、運転者、歩行者一人ひとりの事故防止への自覚と実践によって防ぐものです。

高齢者の 交通事故を防ごう

現在、飯田地方においては、高齢者の交通事故死亡事故抑止が緊急の課題となっています。

幸い竜丘地区では、大者七人のうち五人が六九歳から七八歳までの高齢者でした。年齢から来る変化を自覚したうえで、運転しなう。また、外出する時は、

明るい服装で夜光タスキを着装しましょう。家族の皆さんは、「おじいちゃん気をつけてね」と一声かけてあげましょう。



竜丘駐在所 亀山千秋

去る五月二十四日、Cブロックのニューススポーツフェスティバルが竜丘小学校体育館において行われました。この事業は、毎年ブロック内を持ち回りで開催されているもので、ニューススポーツを普及させるための指導者の育成も兼ねて、Cブロック内の交流を目的に開催されています。

今回の結果は竜丘公民館チームは総合二位でした。実際やってみないと実感が沸きませんが、今後体験する機会があればぜひ挑戦してみてください。またやってみて下さい。またやってみて下さい。またやってみて下さい。

「ニューススポーツ」を 楽しみましょう

去る五月二十四日、Cブロックのニューススポーツフェスティバルが竜丘小学校体育館において行われました。この事業は、毎年ブロック内を持ち回りで開催されているもので、ニューススポーツを普及させるための指導者の育成も兼ねて、Cブロック内の交流を目的に開催されています。

ペタンクという競技は頭脳とテクニックを必要とし、各々のチームが標的に向かって六個のボールを投げ合い得点を競います。

クロリティーはいわゆる輪投げですがこの競技も作戦が勝負の行方を左右し、頭脳とテクニックを必要とするところはペタンクと同じです。

ペタンクという競技は頭脳とテクニックを必要とし、各々のチームが標的に向かって六個のボールを投げ合い得点を競います。



完成した新川さる橋

室内ペタンクを楽しむ

初めまして、上柳です。まだ慣れませんが、できるだけ笑顔で皆さんをお迎えしたいと思っています。よ

上久堅公民館より異動して参りました、砂場です。公民館活動の盛んな竜丘で、皆さんにご指導頂きながら頑張りたいと思います。

前公民館主事 伊藤 康弘

公民館主事 砂場 幹雄

竜丘支所での三年間、短い期間ではありましたが、地区の皆様のお力添えで楽しく仕事をさせていただきました。ありがとうございました。

前竜丘支所厚生係 福田 義久

治水対策部の竜丘駐在員として大変お世話になりました。度重なる冠水被害の区域が変貌しようとしています。有効な土地利用ができますように、お手伝いをしたいと思います。

前治水竜丘駐在員 長沼 秀男



治水竜丘駐在員 伊原 耕作